

佐賀県鹿島市観光周遊コース



のんびら〜とかしま

NONBIRAATO KASHIMA

Route Map of Kashima SAGA

鹿島市観光周遊コース のんびら～とかしま

鹿島市は佐賀県の南西部に位置し、多良岳山系と有明海に囲まれた自然豊かなまちです。

山からの清らかで豊富な水は大地を耕し、鹿島市民の飲料水となり、濃醇な日本酒の原材料となり、町々の水路を駆け抜け有明海に注ぎます。ミネラルたっぷりの水は、干満の差日本一、にごった海日本一の海水と混ざり、海苔やカキを育て、ムツゴロウやワラスボが戯れる宝の海となります。この宝の海は人々に食料を提供し、干潮時に現れる日本一広大な干潟で、子供たちに遊び場を提供し、何千キロも飛び続けて飛来する渡り鳥たちの休息地を提供します。

鹿島市は城下町、宿場町、門前町の顔を持っています。それぞれに込められた歴史や文化があります。また佐賀県最大の酒処で、日本酒を中心とした発酵文化のまちでもあり、お酒に合う美味しい料理も楽しめます。

このパンフレットを参考に鹿島のまちをぶらぶら散策してみませんか？

道に迷ってもいいではないですか。のんびりしましょう。

市内には100以上の方向と距離を示した観光誘導サインがありますので参考にしてください。



目次

(1) 伊能忠敬の歩いた道・多良海道	P03 - P04	(6) のんびら～と祐徳さん	P13 - P14
(2) 多良海道・長崎警備への道	P05 - P06	(7) 桜の里は城跡めぐり	P15 - P16
(3) 肥前鹿島干潟へ Go!	P07 - P08	(8) 酒蔵ツアーズム®ウォーキング	P17 - P18
(4) もう一つの宿場町「辻宿」	P09 - P10	(9) 七浦の海と山と里・多良岳火山の爪痕	P19 - P20
(5) 浜千軒の面影	P11 - P12	(10) 佐賀県最高峰・経ヶ岳	P21 - P22

【レンタサイクル】

< 貸出場所 > 肥前鹿島駅（鹿島市観光案内所（鹿島バスセンター内））・肥前浜駅（土日は事前予約のみ）

< 申込先 > （社）鹿島市観光協会 鹿島市観光案内所 ☎0954-60-5145

< 各駅配置台数 > 26インチ自転車2台・26インチ電動アシスト付自転車1台

< 受付・返却時間 > 9:00～15:00（返却時間16:30迄）

< 料金 > 1時間150円4時間以上500円（1日）・電動アシスト付は1時間200円5時間以上1,000円（1日）

・ご利用の場合は、使用台数の確認等もありますので事前に電話予約をお願いします。

・身分証明ができるものが必要です。（運転免許証・健康保険証・パスポート等）コピーをとらせて頂きます。

・雨天は貸出中止です。



【市内の路線バス】

JR長崎本線肥前鹿島駅前の鹿島バスセンターより祐徳稻荷神社、佐賀駅、嬉野温泉、武雄温泉駅方面を中心に運行しています。

その他の路線は、土日祝に運行本数が減ったり、運休したりしますのでご注意ください。

祐徳バス ☎0954-69-8077



九州のバス時刻表

【タクシー】

市内に1社あります。一般、観光、酒蔵巡り、また佐賀空港へのリムジンタクシーも運行しています。

再耕庵タクシー ☎0954-62-2171



【マップ】

Googleマップ等のマップアプリの他、国土地理院の電子国土webも合わせてご利用頂くと便利です。

国土地理院ウェブサイト (<http://maps.gsi.go.jp/>)





祐徳稻荷神社



▲経ヶ岳

- 中中庭ダム
- のみの郷 やまびこ広場
- 棚田の風景
- 平谷温泉
- 平谷物産直売所
- 自然の館ひらたに
- 平谷郷土の森 (経ヶ岳登山口)
- 奥平谷キャンプ場 (経ヶ岳登山口)
- 平谷黒木トンネル

ここから先は
下記マップA

有明海沿岸MAP

- 鎮守神社
- 宝聚寺
- 道の駅鹿島
- カタリンピック開催地・干潟体験
- JR 肥前七浦駅
- 天子神社
- 海道しるべ
- 有明海
- 飯田パーキング
- 戸口神社
- JR 肥前飯田駅
- 多良岳オレンジ海道 (至太良町・諫早市)
- みんなの家
- 至太良町・諫早市

伊能忠敬が歩いた道・ 多良海道（北鹿島）



<路線バス利用で百貫から約6km>
ウォーキングがおすすめ
<肥前鹿島駅から約8km>
レンタサイクルもおすすめです



鹿島バスセンターから 九州のバス時刻表
佐賀駅バスセンター行き百貫下車



多良海道は長崎街道の脇街道ですが、初期には本筋として利用されていました。東海道と同じく海側を通る道ということで多良海道と呼ばれています。長崎街道の小田宿（江北町）から分かれ、六角宿、高町宿（白石町）を経て竜王峠を越え、古渡して塩田川を渡り鹿島に入ります。浜町を經由し湯ノ峰山のふもとから鮎越を通り、矢答峠から多良、長崎県の湯江から諫早と抜ける道です。塩田宿から分岐して鹿島に入る通りもありました。

【長崎警備①】

江戸時代の長崎は、唯一、諸外国に開かれた港でした。幕府はこの長崎を天領とし、長崎奉行を置き、1641年（寛永18年）に、福岡藩、1642年に佐賀藩に長崎警備を命じました。以降、1年交代で両藩が警備に当たり、幕末まで続きました。佐賀藩が長崎警備につく際は、他領（大村藩）を通らずに長崎まで行くことが出来るため、多良海道が度々使用されていました。19世紀の佐賀藩主の長崎巡検をみると、年3回のうち4月と9月の2回は多良海道を通っています。



ふるわたし

2 塩田川古渡橋

かつて渡船場が近くにありました（別名長浜の渡し）。1812年、測量に訪れた伊能忠敬の測量日記には、舟渡21間（約38m）とあります。塩田川は満潮時、上流の塩田津（現嬉野市塩田町）まで潮が満ちて船が遡上出来たことより、海運が盛んでした。有田焼に使用される天草陶石も運ばれました。谷平次兵衛という侍がこの川で川童を切り殺したと伝えられ、死後、彼の遺体を運んだ際、その祟りで遺体が沈んだと言われています。



←塩田宿へ



1 百貫

江戸時代後期、古渡の下流に出来た渡船場。港の機能もあり、水揚げされる漁獲量が百貫（約375kg）あったことから、この地名がついたと言われます。昭和2年に百貫橋、昭和5年には国鉄の鉄道橋も架けられました。



3 殿橋

塩田宿方面と古渡橋（小田宿）方面からの道が合流する場所。この橋の下の水路は、江戸時代1784年に4km先の塩田川より水を引いた水道で、北鹿島の干拓地まで水を送っています。



4 乙丸交差点

祐徳馬車鉄道（後の祐徳軌道）の北鹿島停車場があったところで、百貫橋（新渡）方面への支線百貫線の分岐地点。このため緩くカーブした変形交差点となっています。祐徳軌道は、祐徳稲荷神社門前（立花屋付近）より浜、鹿島、塩田、武雄を経て高橋（武雄市朝日町）まで結んでいました。

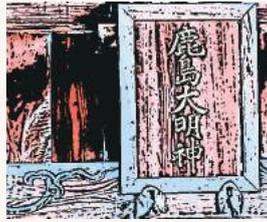


5 常広城跡

戦国大名竜造寺隆信の家臣鍋島信房（佐賀藩祖鍋島直茂の兄）が築城。その後、初代佐賀藩主勝茂の弟、忠茂が鹿島2万石を分封され入城しました。忠茂は関ヶ原の役で西軍に加担した鍋島家のため、2代將軍徳川秀忠の小姓（人質）となりました。その忠勤により徳川家の覚えめでたく、鍋島36万石の本領安堵の一役を担いました。この城は度々水害に見舞われたため、1807年に高台の高津原地区に新城（館）が作られた後は古城と呼ばれるようになりました。現在の北鹿島小学校が本丸です。

6 鹿島大明神（鹿島神社）

初代藩主忠茂公は千葉県香取市にも徳川幕府から領地を与えられており、近くの鹿島神宮（茨城県）の信仰も厚かったことより後世に勧請されたとのことです。神殿の後ろには常広城の礎石が7基並べて置いてあります。忠茂の子孫は、その後、5000石の旗本となり江戸飯田橋に移ります。餅の木鍋島家と呼ばれ、北町奉行も務めました。



7 本町（鍵町・魚町）

常広城の城下町として栄えました。鹿島川沿いには港があり番所、高札場もありました。漁村があり魚町と呼ばれた地区もあります。1796年に記された書物「鹿島往還筋普請定帳」には道幅3間（約5m）とあります。



高町宿・小田宿へ→

8 諸国屋

伊能忠敬一行が泊まった宿の1つ。文化9年（1812）十月の測量日記には「九ツ後二鹿島村着（略）止宿本陣徳人屋忠右衛門、別宿諸国屋茂平」とあります。館内には測量に使用した器具の解説などが展示されています。



9 願行寺

願行寺山門は常広城から移した門といわれています。



10 吉田家住宅 （国登録有形文化財）

1890年（明治23年）建築で、木造和小屋2階建居蔵造りの建物です。屋根は椽瓦葺きで、正面通り側は入母屋平入り造りとなっています。



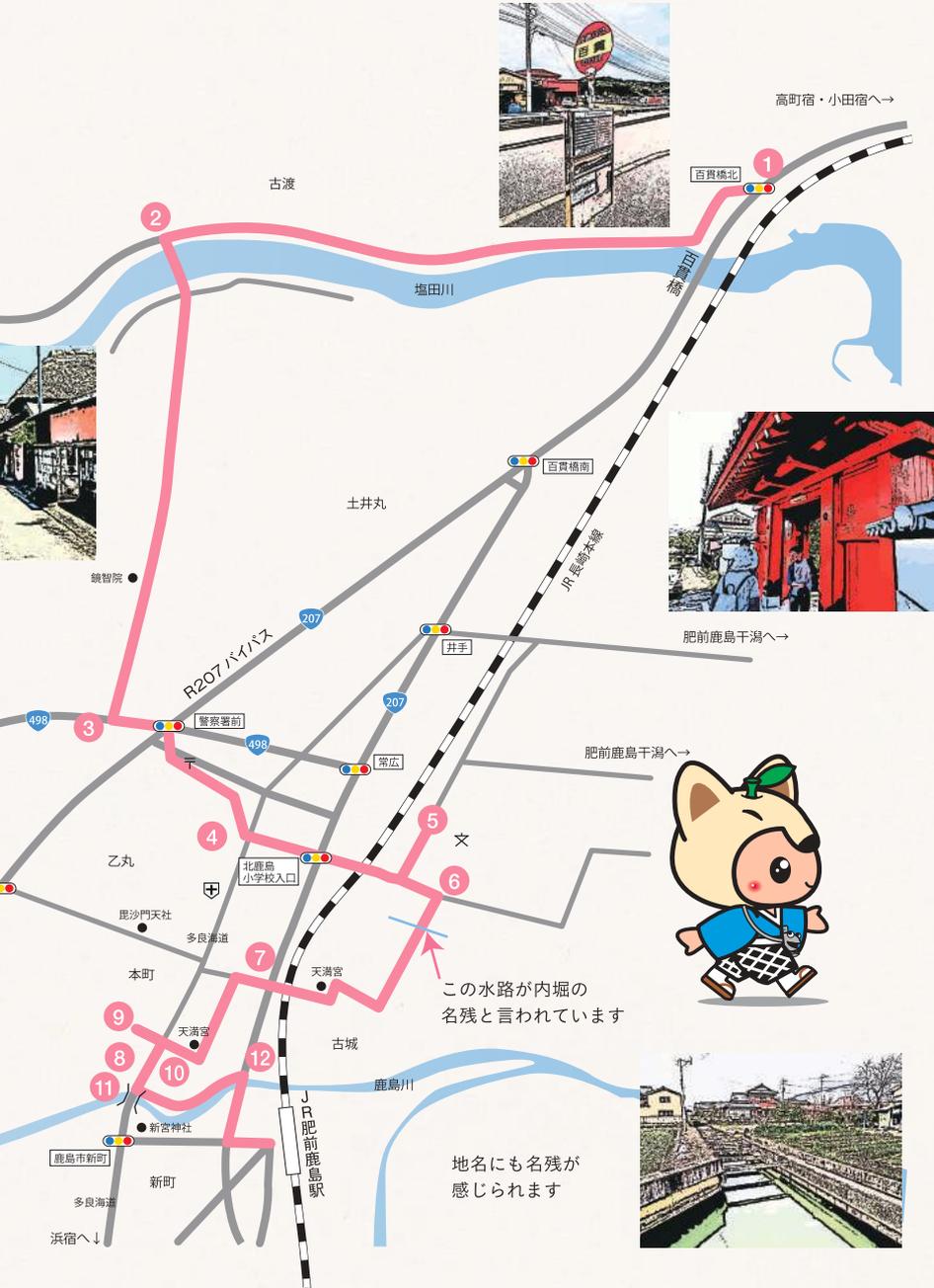
12 常夜灯と唐泉山

横沢橋の傍らに始め2基の常夜灯が建っており、また八天狗神を奉納する唐泉山の参詣路が港に入る舟の目印となっています。



11 横沢橋（横造（蔵）城の古戦場）

この橋の上流側（排水ポンプ場近辺）に横造城があり、侵攻する竜造寺氏と守備する有馬氏が領土争いをしていた頃（1576年）の激戦地です。竜造寺・鍋島氏による肥前統一の3大激戦地の1つとされています。この戦いの後、有馬氏は島原半島まで退きます。



この水路が内堀の名残と言われています

地名にも名残が感じられます





多良海道 長崎警備への道

<肥前鹿島駅から矢答まで 12km>
ドライブがおすすめ

北鹿島地区から鹿島地区に入った多良海道は、城下町として栄えた新町地区を通過します。中川に橋が架かったのは1822年（文政5年）。今の市役所辺りには鍋島家の別邸がありました。その後、国道207号に合流し、泉通りを南下します。泉通りは海拔5m地帯で、中川扇状地より豊富な地下水が湧き出たことより名がつけました。斎場裏手の深井戸は年中、満々と水を湛えています。多良海道はその後、^{しめこ}神水川、石木津川を渡り、浜宿に至ります。酒蔵通りを通り、国道を横断し浜大橋を渡り、茅葺の町家が点在する浜庄津町に入ります。浜金屋町突き当りが金屋町御番所で、2名が警護しており昔は一里塚もあったそうです。右に折れ、浜崎交差点で国道を横断し、湯ノ峰公民館前を通ると多良岳の尾根道の始まりです。国道207号バイパス、多良岳オレンジ海道を高架橋で横切り、多良岳火山の寄生火山のひとつ湯ノ峰山のふもとを抜けると鮎越地区です。両側にはみかん畑や江戸時代に造られた数々の堤があります。車1台がやっと通れるほどの道となりますので、対向車には十分ご注意ください。途中には大きな腰掛石もあります。その後も尾根道を進み、有明海や経ヶ岳、浄土山の展望がきく、婦人センターを通過すると標高400mの^{やごたえ}矢答地区に至ります。現在の国道は海岸沿いを通り、多良宿、諫早宿へと向かいますが、当時は、平野が少なく、小浸食谷による起伏が激しいうえに、幾つもの入江がある地形であったため、多良岳の中腹を通る多良海道が近道でした。

【長崎警備②】

長崎に近い鹿島藩は、兵員を出し佐賀本藩をよく助けました。1660年、本藩主が病の為、3代直朝が代理を務めました。^{なおよし}1864年、第13代直彬は、幕府が長州と対峙していた頃、専ら長崎の警備を担当しました。佐賀本藩の最後の藩主鍋島直正（閑叟）は長崎警備に力を入れ、西洋の技術を取り入れて鉄製洋式大砲や蒸気船を製造しました。やがて佐賀藩は、近代的武器を用いて明治維新に貢献、薩摩・長州・土佐にならぶ中心勢力となり、薩長土肥と呼ばれるようになりました。

※2018年（平成30年）は明治維新150年です。
薩長土肥スタンプラリー開催中です。 <http://www.ishin150.jp>



② 浜宿御茶屋（上使屋）

東海道など5街道の本陣の役目を果たした屋敷。現在の若宮神社の右隣に設けられました。佐賀藩が費用を出し、鹿島藩が管理。長崎警備、幕府要人、幕府巡検使など多くの記録が残っています。若宮神社は、1692年（元禄5年）より浜祇園まつりの松岡神社の神輿の御渡りの下の宮となっています。



① 藤の森

奈良時代、8世紀初めに編纂された「肥前国風土記」の記事によると日本武尊（やまとたけるのみこと）が行幸された時、船を大藤につないだことより藤津郡と名付けられた伝説があります。

④ 浜宿高札場・道路元標

高札場は幕府や領主の最も基本的な法令を書き記した木の札（高札）を掲示した施設で、主要な街道が交差する交差点（浜の場合は港）に設置されていました。北鹿島の横沢橋にも置かれていました。



③ 浜宿

浜川沿いを弓なりに通じる八宿・中町の通りは、白壁土蔵造りの酒蔵が建ち並んでおり、通称「酒蔵通り」と呼ばれます。この酒蔵通りを抜け、浜川を渡って国道207号線の裏通りの舟津・庄金地区（庄津町・金屋町）の旧道を抜けるまでが多良海道の要衝で、宿場町・港町として栄えた浜宿です。



⑤ 湯ノ峰山麓の海道

標高152mの湯ノ峰山の7合目付近の西側を通ります。湯ノ峰山は多良岳火山の寄生火山と言われています。嬉野温泉も多良岳火山の余勢で出来たと考えられています。



7 花取三叉路

ここは祐徳稲荷神社と多良海道との分かれ道。近辺には「従是祐徳院迄一里・・・」の道標が立っていました。現在この道標は祐徳稲荷神社外苑の祐徳博物館前に移転されています。幕末最後の長崎警備の途路、佐賀藩主鍋島直正も参詣しています。



6 腰掛石

昔から耐越の腰掛石と呼ばれていました。

3 肥前浜宿拡大図



8 矢立・婦人センター

かつてこの近辺には茶屋がありました。見晴らしがよく、奥山地区の谷や多良岳寄生火山の1つの奇抜な山容の浄土山などの景色を見ることが出来ます。矢答とともに為朝の矢の伝説から地名がついたとも言われています。



の深井戸



9 矢答

矢答の地名については次のような伝説があります。「1154年源為朝が13歳の時、九州に下って鎮西八郎と名乗り、人々を苦しめている大蛇を退治した。この時、射た矢が大蛇を貫き、勢い余って、この地まで飛んで突き刺さり大きな矢音が響いた。それから、この地を「矢答」と呼ぶようになった。」



▲浄土山 (500m)



▲経ヶ岳 (1076m)

--- 浜宿からの多良海道 ---
google マップをご利用の場合湯ノ峰山と西側の堤(黒岩堤)の間にある道(市道 525)を目指し、進んでください。



10 水置所・道標

矢答は、浜や多良から登りきった所に位置し、湧き水の水小屋(水置場)がある格好の休息地でした。佐賀藩主の長崎警備の際や幕府の巡察使なども立ち寄りました。この裏側には石碑と道標があります。石碑には「是よりただけみち」道標には「太良嶽参詣路」と書かれています。1830年からの天保年間の浜〜矢答〜多良間3里7町の馬賃は、一駄40貫(約176kg)までは186文でした。

多良宿へ→



肥前鹿島干潟へ Go !

<肥前鹿島駅から一周 9km>
サイクリングがおすすめ

乙丸東（北鹿島小学校最寄りバス停）から
鹿島バスセンターまで路線バスが利用出来ます。（2区間約 1km）

2015年（平成27年）6月北鹿島地区の新籠干潟は、貴重な渡り鳥が飛来するラムサール条約登録湿地となり、肥前鹿島干潟の名称で登録されました。鹿島川と塩田川の河口に広がる「肥前鹿島干潟」は、広大な干潟に生息しているカニやゴカイ等の生物を餌とするシギ、チドリ類、希少種のクロツラヘラサギ、ズクロカモメの渡来地となっています。このコースでは、肥前鹿島駅からレンタサイクルがおすすめです。途中は、自販機、売店などありませんので駅の売店で用意しましょう。

ラムサール条約

ラムサール条約の正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といいます。この条約は、湿地の生態系と環境を守りながら湿地を賢く利用（ワイズユース）していくことを目的としています。



① 肥前鹿島駅 ② 犬王袋踏切

JR九州長崎本線の特急停車駅です。博多駅、長崎駅より約1時間で到着します。

この踏切では、肥前鹿島駅を眺められます。長崎本線のこの区間は単線のため、殆どの時間で上り下りの特急列車の行き違いが発生します。画像は885系白いかもめ、787系黒いかもめです。



③ 鹿島川にかかる人道橋

この橋は人や自転車、バイクのみ渡ることが出来ます。車の場合はこの先の鹿島大橋を渡ります。



⑤ 堤防道路

遠くには多良岳山系、雲仙普賢岳を望み、干潮時には漁船も打ち上げられる特徴的な干潟の風景が眺められます。



<肥前鹿島駅から約 4km>

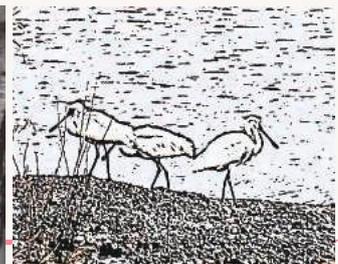
⑥ 肥前鹿島干潟（新籠）

野鳥観察のハイウォール、海岸まで降りられる遊歩道があります。潮汐を調べて満潮の時を待ってみてください。潮が満ちてくる音が聞こえることでしょう。



④ 向水道記念碑

かつてこの鹿島川の下を灌漑用の水道が通されていました。ここより南側の海拔5m地区（泉通り郵便局付近や明倫小学校付近など）の井戸水や湧水を集め、川底に管を埋め、サイホンの原理を使って海拔2mの北鹿島地区へ送っていました。江戸時代、第6代藩主鍋島直郷公の代1734年に完成。当初は松や榎の木で通していましたが、1891年（明治24年）から石造りの管が使用されました。1976年（昭和51年）の大水害を機に廃止されました。※泉通りはその名の通り、少し掘っただけで泉が湧き出た場所です



⑦ 貴重な渡り鳥

世界に3千羽しかないクロツラヘラサギ。11月から4月に見ることが出来ます。この時期は、他にズクロカモメ、ツクシガモなどが見られます。また、4月～5月、8月～9月はチュウシャクシギが見られます。



9 (ちょっと寄り道) 八大龍神の石祠

新籠展望台より堤防道路を750mほど北方向に進んだところにあります。1787年(天明7年)の銘があります。かつては、各地の堤防の上に地鎮、防災、豊作、豊漁、水の恵み(雨乞い)などを祈願した石祠が祀られていました。さらに1km進めば海の紅葉と呼ばれるシチメンソウの群落が見える港があります。見頃は11月です。



11 北鹿島小学校(常広城本丸跡)

鹿島鍋島家2万石の最初の居城でした。初代から第9代までがこの城、9代から最後の13代藩主までが高津原の高台にある鹿島城を居城としました。北鹿島小学校がかつての本丸部分で、城は方形の本丸を中心に土手と堀で囲まれていました。小学校南側の水路がかつての本丸の堀の名残です。線路を超えて国道207号線のトヨタレンタリースの辺りが北西端で、櫓台がありました。鹿島橋付近より鹿島川と塩田川の間で長大な土手(およそ1.5km)を築き水害に備えていました。この土手は城の外郭線と考えられ、東西四方の範囲は佐賀城に順ずる規模の平城と思われます。

8 干拓

有明海は、潮汐の干満と筑後川や塩田川など多くの中小河川の堆積作用によって、海底が浅く干潮時には広大な干潟が現れる干拓には適した土地です。江戸時代、2万石という小藩で財政的に豊かではなかった鹿島藩においても、3代藩主鍋島直朝の干拓事業を代表に、歴代の藩主が干拓に力を注ぎました。肥前鹿島干潟の元の名は新籠と呼ばれていました。干拓地には「籠(こもり)(籠)」「搦(からみ)」などの地名がありますが、干拓の工事方法に由来しています。籠は文字通り「籠(カゴ)」を使って干拓工事を行う工法です。



(ちょっと寄り道)

10 天満神社(天神宮)の肥前狛犬

干拓地の中にボツンと建つお社の中には、佐賀県特有の肥前狛犬が安置されています。肥前狛犬は、顔の表情や体の表現が簡素化され、一見すると蛙なのか犬なのかよく分かりません。江戸時代前期を中心に造られています。他には鹿島地区「琴路神社」などに残っています。鳥居は肥前鳥居ではなく明神鳥居です。



12 常夜灯

鹿島橋のたもとにかつては2基の常夜灯がありました。江戸時代の鹿島港の灯台と言われています。





もうひとつの宿場町「辻宿」

<誕生院から 3km>
ウォーキングがおすすめ

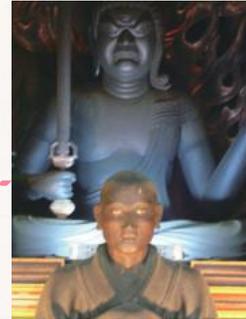
鹿島バスセンターから久保山經由祐徳神社行き
誕生院前下車徒歩 5 分

辻宿は城下から山あいの三嶽神社方面と嬉野から祐徳稲荷神社への参詣道の交差点です。参拝客が泊し旅装束から礼服に着替えてお参りしたり、参拝の帰りに泊し旅の疲れを癒したりする憩いの場でした。宿屋は江戸時代 10 軒程度あったそうです。



1 誕生院

真言宗や高野山を復興した興教大師覚鑿聖人の生誕地。室町時代の 1405 年の建立です。庭園も見事でどなたでも気軽に入れるお寺です。正覚庵会館では、食事（仕出し弁当）や休憩、瞑想など利用できます。周辺 7 つの不思議をめぐるミステリーツアーも実施中。1 名 2000 円（お守り、お土産付）
☎0954-62-3402



2 覚鑿聖人

覚鑿聖人は平安時代の 1095 年生まれ、幼少期より聡明で岩屋観音などで修業をし、13 歳で京都に上りました。16 歳の時に名を覚鑿と改め、出家して高野山に入り、弘法大師空海上人の教えを継がれ、厳しい修行と勉強で最高位まで出世しました。聖人の死後、江戸時代に朝廷より大師の称号を贈られています。この称号は歴史上 24 人しかおらず、九州ではただ一人です。

錐鑽身代不動明王

興教大師覚鑿聖人の身代わりになって木造でありながら生血を流され、難を救ったとされる不動。もともとは和歌山県高野山に祀ってあったものを根来寺に移した後に、大正時代に誕生院に安置されたと伝えられています。



3 鬼塚

7 世紀代（飛鳥時代）の築造。佐賀県でも 1、2 番目の規模と内容を備えた横穴式石室です。中に入る事の出来る貴重な古墳です。

5 印鑰天神社

印鑰とは印鑑と鍵のことで、古代における地方官庁の印や倉庫の鍵が保管してあった場所です。この神社の最古の記録は南北朝時代の 1350 年です。



4 琴路神社

能古見地区にある三嶽神社（奈良時代創建）の下宮。伝承として琴を深流に流して、その留まる所に社殿を営んだとあります。鎌倉時代の 1241 年創建です。珍しい肥前鳥居、肥前狛犬が残っています。

佐賀県一帯の神社には、他の地域とは異なる独特な鳥居と狛犬が見られます。
「肥前鳥居」

特徴は一般的な明神鳥居とは異なり、笠木と鳥木が一体化してその先端が舟のへさきのような流線形をしています。江戸時代初期に流行し、1681 年頃には早くも減少していきました。琴路神社のほかには、北鹿島「五の宮神社」、「神明宮」古枝「山祇神社」、能古見大木庭地区「松山神社」、七浦飯田地区「戸口神社」、「一本杉天満宮」の 6 基が残っています。

「肥前狛犬」

肥前鳥居同様、江戸時代前期を中心に造られた佐賀県独特な狛犬です。一見すると蛙なのか犬なのかよく分からない非常にユニークで素朴な形状をしています。琴路神社のほかには、能古見浅浦地区「救世神社」、浜「松岡神社」、北鹿島「天神宮」などにあります。



6 のごみ人形工房 （染織資料館）

郷土の風物や干支をモチーフにした素朴な郷土玩具を製作する工房です。のごみ人形工房に隣接する資料館。人間国宝鈴木滋さんによる木版摺更紗の作品や鍋島更紗の秘伝書などが展示してあります。共に事前連絡が必要です。
☎0954-63-4085

7 鬼面もなか

民俗芸能面浮立が盛んな鹿島ならではの最中です。



9 琴路宮

能古見地区にある三嶽神社の中宮。室町時代の1459年創建。三嶽神社、琴路神社、琴路宮の3社は中川の水を支配する水神として崇敬されていました。

8 蓮蔵院

草創は奈良時代ともいわれ、平安時代に京都仁和寺（真言宗御室派）の荘園となりました。その後、平安時代末期に全国に一国一伽藍が命じられ、肥前国勅願の道場として、金剛勝院という七堂伽藍が整備された大規模な寺院がこの地に建立されたと伝わります。堂内に安置されている重要文化財の仏像3体があります。事前予約で見学可能 ☎0954-62-1375



寛蓮の碑は祐徳稲荷神社外苑にあります。

10 橘園

囲碁の名人であった橘良利の旧居と言われている。江戸時代に石塔が建てられています。良利は出家して寛蓮と名のり、平安時代の913年に日本で最初に碁式（囲碁のルールを含む碁碁礼式）を著しました。当代随一の囲碁の名人で「碁聖」と呼ばれました。



11 (ちょっと寄り道) 南川の深井戸

多良岳山系に源を発した中川は水量が多く、井戸を掘っても比較的浅い場所から伏流水が豊富に得られます。海拔19m地帯の南川地区には3か所の灌漑用井戸があります。長方形で深さ6~7mあります。



浜千軒の面影を訪ねて

<肥前浜駅より 3km>
ひと筆書きウォーキングがおすすめ

2

足を延ばして浜干拓 堤防の中の堤防を訪ねて

<肥前浜駅より 5km>
サイクリングがおすすめ

肥前浜宿は、有明海を臨む浜川河口の港町として、室町時代にはすでに形が出来ており、江戸時代には長崎街道多良往還（多良海道）の宿場町として豊かな町並みがつくられました。浜中町八本木宿（酒蔵通り）と浜庄津町浜金屋町の二つの国選定重要伝統的建造物群保存地区で形成されています。

陸路と海路の接点として栄えたことより人口も多く、「浜千軒」と呼ばれました。

茅葺き町家と棧瓦葺き町家が混在している全国でも珍しい【在郷町・港町】

浜庄津町は港町として商人や船乗りなど、浜金屋町は職人町として鍛冶屋・大工・左官など様々な職種の人々が居住する鹿島藩内最大の商工業の町として賑わいました。

「酒蔵通り」で知られる白壁土蔵の酒蔵が多く残る【醸造町】

浜中町八本木宿は、酒造などの醸造業を中心に発展し、大型の酒蔵や武家屋敷、洋風建築など多彩な建物が、変化ある町並みを形成しています。

先の見えない緩やかにカーブした道路や小路、さらに浜川から取り入れられた水路が町の縦横にあります。他の重伝建地区に例の無い町並みとして国に評価された独特の風情を体感できます。今では観光地となった酒蔵通りだけではなく、小道に入って浜千軒の面影を感じてみてはいかがでしょうか。



1 肥前浜駅

JR 長崎本線は、昭和9年に全線開通しました。肥前浜駅は単式・島式ホームを持つ2面3線で、昭和5年の開業で、内装・外観共に往時の面影をよく残しています。駅舎に掲げられた「肥前浜驛」の看板は開業当時のものと思われます。かつては、JR九州の「クルーズトレインなつ星」も、ここで列車の行き違いを行っていました。



9 七軒小路

言い伝えによれば、島原の乱の時、鹿島藩の家老に命じられた浜船津の船頭7名が1000人余りの軍勢を運び、おおいに藩の面目をほどこしました。この時の恩賞で屋敷を給わったことより七軒小路と称されるようになりました。



5 長崎本線鉄橋の人道橋

定員5名です。真横を特急が疾走する様子は迫力があります。



8 道路元標

1604年（慶長9年）、東京日本橋に全国へ通じる諸街道の出発点として設置されたのが始まりと言われています。その後、1922年（大正11年）に、当時の各市町村に1か所ずつ、国道や県道の起終点などに建てられました。現在はその役割を終え、道路法上は「道路の付属物」に定められています。鹿島市には3か所残っていますが、全国的にも残っている数が少なく、非常に貴重なものです。江戸時代には高札場が立っていました。

6 工

1798年当時
昭和4年に

13 水

浜川、多々
流速、清浄
した。



高さ制限 1.6m のトンネル



3 狭い通路

水路が走る狭い通路です。



4 大明神（龍神社）

地元の人が大明神と呼んでいる堂があり、室内には大きい岩礁を置いてご神体としています。浜川を挟んだ部落がこの岩礁を取り合った言い伝えがあります。

有明海最大の良港 (浜庄津町・北舟津・南舟津)

明治 17 年当時、174 隻の船があり佐賀県 1 位、遠洋漁業も盛んで東シナ海まで操業をしていました。舟番所もありました。少し足を延ばせば、新浜大橋の先に浜漁港があります。干潮時には漁船が打ち上げられている変わった風景が見られます。



肥前浜驛

浜町の武士

1858 年当時、鹿島藩の武士が 797 名のうち 124 名が居住。平均禄高も城内について高く上級藩士が住んでいた。



旧乗田家住宅（武家屋敷）

酒蔵通りから少し裏に入った所にある武家屋敷です。江戸時代末期に建てられた鹿島藩士の旧宅で、広い敷地と「クド造り」の茅葺き屋根が特徴です。市の重要文化財に指定されています。

まちなみガイド

見所いっばいの肥前浜宿を「まちなみガイド」（有料）のご案内します。地元ならではのエピソードを交え、旅の思い出づくりのお手伝いをします。

☎NPO 肥前浜宿水とまちなみの会 0954-69-8004



7 夷三郎の碑

七福神の一つである恵比寿信仰は江戸時代から盛んになりましたが、この恵比寿様は恵比寿像が日本一多いと言われる佐賀県の中でも 3 番目に古いものと言われています。1687 年（貞享 4 年）に作られており、「夷三郎」の文字が彫ってあるだけの珍しいものです。



14 浜干拓

少し足を延ばすと浜干拓があります。ここは新旧の堤防が 2 つあります。新しい干拓は昭和 22 年着工、昭和 41 年 11 月潮止完成、44 年竣工、83ha あります。古い堤防の内側は江戸時代の干拓です。酒米である山田錦の栽培も行われています。山田錦は代表的な酒造好適米として昭和 11 年に命名されました。大吟醸酒用として人気があります。特に兵庫県産の山田錦は優れていますが、鹿島市内にも 15 人の方が山田錦を栽培しています。平成 26 年の鹿島市内の山田錦生産量は 65t ありました。酒造好適米は普通の食用米と比べ、背丈が大きいのが外見的特徴です。



左：山田錦
右：食用米

業の町（浜金屋町・浜中町）

鍛冶職人は 100 人余、酒屋は 12 軒ありました。は 14 軒（兄弟社含む）ありました。

路

良川から取水し、町を縦横に走る水路は、流量、さにおいて素晴らしく、繁栄の基礎となりました



15 満潮時通れない道路

浜干拓の堤防道路沿いに進むと石木津川の河口に出ます。さらに進むと JR の鉄橋をくぐる道路になります。満潮時は通行出来ません。



のんびらーと祐徳さん

鹿島バスセンターから祐徳神社行き
終点下車徒歩5分

祐徳稲荷神社は日本三大稲荷の1つに数えられていて、各地から年間300万人もの参拝客が訪れます。最近では、タイの映画やテレビドラマのロケ地になったことより、海外からのお客様も増えています。

鹿島3代藩主鍋島直朝の後室萬子は京都の左大臣花山院定好の娘で、1662年(寛永2年)鹿島に嫁ぐ時に、稲荷大神の分霊を授けられたと言われています。1685年(貞享2年)、古枝に普明寺の末寺として石壁山祐徳院が建てられ、1687年に萬子が入寺しました。おくり名より祐徳稲荷神社と呼ばれるようになりました。境内は広く、奥の院や東山外苑の上り下りなど、意外と足腰が鍛えられます。ゆっくり時間をとって、参拝の後は、門前商店街で休憩はいかがですか。

1 手水舎



深さ130mからの太良山系の伏流水を取り入れています。日光東照宮と同じ時期の建築といわれています。柱が内側に3度傾いた構造、「うちころび」で、これは先人達の耐震構造です。

2 楼門



楼門は日光の陽明門を模したものです。出迎える左右の随神は有田焼、有田の巨匠、柿右衛門の菊、今右衛門の牡丹の陶板もあります。社額は秩父宮妃の書です。総漆喰塗り極彩色の壮麗な社殿は、鎮西日光とも称されます。

3 猪の目



神社の至る所に「猪の目」と呼ばれるハートマークがあります。これは火事に敏感な猪の目を借りた一種の火除けです。

4 岩崎社

御本殿舞台の真下に御鎮座されています。岩崎大神は縁結びの神様として祀ってあります。近年、若い女性の方や外国人の方で賑わっています。



6 本殿の高さ

高さは18m。京都の清水寺をもしのぐ高さです。



5 2体のなで馬

稲荷神社にとっては縁日にもゆかりがある特別な動物である馬。身体の治したいところを撫でると、そこを良くしてくれるという言い伝えがあります。



7 本殿八方睨みの竜

本殿内の天井には、どこから見ても目が合うという八方睨みの竜がいます。昇殿参拝(1000円)を申し込めば本殿内に入ることが出来ます。

6 命婦社



かつての本殿。1804年(享和4年)の建築で佐賀県の重要文化財に指定されています。祭神：命婦大神
稲荷大神の神令使(お使い)である白狐の霊を、お祀りしている社です。素晴らしい数々の彫刻と、重量感があり調和のとれた社殿は、19世紀初期の代表的建築物として高い価値があります。

16 祐徳稲荷神社別社



神様の別荘です。
観光案内所前の道路を上り、道路右手にある「農道整備記念碑」のT字を左折し奥の院付近を通り、T字路を左折して下さい。突き当り駐車場、トイレがあります。記念碑の所より道が非常に狭くなり、車同士の離合は出来ませんのでご注意ください。



8 石壁社

1705年（宝永2年）萬子80歳の時、石壁山の山腹に寿蔵をつくり、ここに安座して入定された場所です。



9 枯れることのない水鏡

石壁社の隣にある枯れることのない水鏡。萬子媛は毎朝これで、元凶を占ったとされています。



10 岩本社

祭神：岩本大神
岩本社は切り立った高い崖の中腹に鎮座されています。岩本大神は技芸上達の神様として祀ってあります。

11 奥の院

標高150mまで登ります。標高差は100m程です。
祭神：命婦大神
山頂からは鹿島市内より有明海へと続く雄大な眺めを楽しめます。



12 日本庭園

よく手入れされており、四季折々の花々が絶妙の時期に展示されます。コンパクトな作りで高齢の方にも優しい庭園です。200円



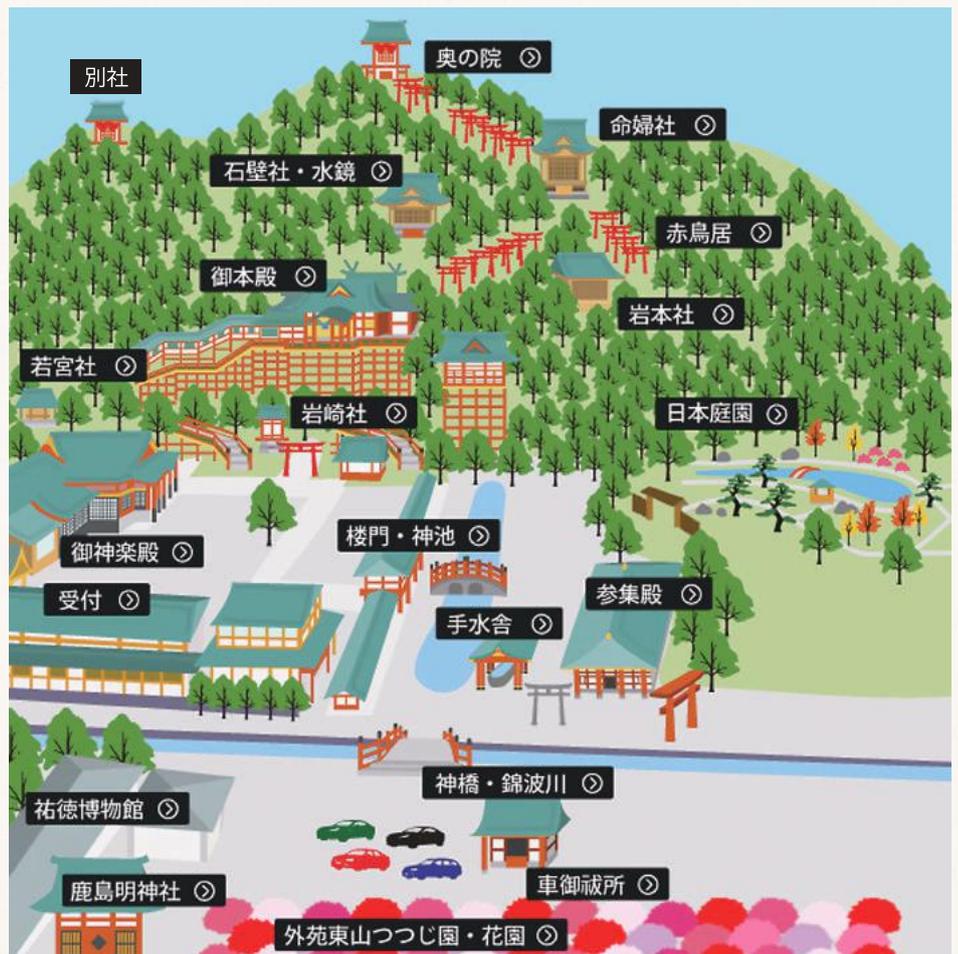
14 祐徳博物館

祐徳稲荷神社の宝物に郷土出土品を併せて展示する博物館です。歴代藩主の鎧、伝統工芸品の鹿島錦（佐賀錦）は鹿島が発祥の地で、鹿島錦の創始者とされる篤子（9代藩主夫人）の作品を始めとして多数の作品が展示、販売されています。博物館横には、かつての道しるべに使われた石柱があります。



13 東山外苑

春はツツジ、秋はコスモスが咲き誇ります。斎藤茂吉の歌碑もあります。標高100m、標高差は60m程です。



15 お守り

160種類以上あります。うまくいくお守りは馬が9頭、たくさんの願がうまくいくように導いてくれるお守りです。勝守は人生こ一番の勝負運を守護するお守りで、箱根駅伝に出場した大学チームがシード権獲得のご利益がありました。恋守は、タイのTVドラマのラストシーンで主人公の女性が手に握りしめた場面がありました。



桜の里めぐりは城跡めぐり

<肥前鹿島駅から10km>
ドライブがおすすめ
頑張ってウォーキング、サイクリング



桜の名所は、各地に数多くありますが、鹿島市の場合、城跡になっている所が桜の名所にもなっています。



① 旭ヶ岡公園（鹿島城）

旭ヶ丘公園は、13代藩主鍋島直彬が1867年（文久2年）に松蔭神社の境内の一画に多くの桜を植えて「衆楽園」と名付け、人々に開放、観桜の宴を開いて楽しんだことが始まりです。1887年（明治20年）に赤門に通じる道の両側に植えられた桜並木は「花のトンネル」と呼ばれ、とりわけ1914年（大正3年）には、九州では初めて夜桜に電飾の設備がなされ、一躍有名になりました。また、佐賀県三大桜の名所のひとつです。2007年（平成19年）には「日本の歴史公園100選」に選ばれました。



② 鹿島城

鹿島藩は佐賀藩の支藩として、1609年（慶長14年）に、鍋島忠茂が藤津地方2万石を与えられたのが始まりです。当初、鹿島の城は北鹿島の常広にありましたが、低地で度重なる水害に悩まされていた為、1807年（文化4年）小高い丘陵地であるこの地に移転されました。1874年（明治7年）、司法制度を確立させた元参議江藤新平、札幌の都市計画を行った元秋田県令島義勇らが主導した佐賀の乱の時に、赤門と大手門を残して主要建物はことごとく焼失してしまいました。

県の重要文化財である「赤門」と「大手門」は県内に残る数少ない城郭遺構として貴重です。特に丹塗りの赤門は本丸御殿の正門で、現在は東大と同じく、学校の赤門として使用されています。
※鹿島藩は、無城主格の大名であったため、正式には城ではなく、陣屋あるいは館・屋敷でした。
JR 長崎本線肥前鹿島駅下車徒歩約15分
鹿島バスセンターから大野・尾崎・柿原行き鹿島小学校前下車（日曜日は運休）肥前鹿島駅より約1.5km



1885年生 - 1944年没

③ 田澤義鋪之碑

青年教育と政治教育、選挙粛清に一生を捧げました。特に、青年団運動・青年教育に尽力した活動で知られており、「青年団の父」と呼ばれています。「平凡道を非凡に歩め」「故郷を錦で飾る」など、語り継がれる言葉を残しました。

④ 鍋島直朝公追徳碑

鹿島3代藩主で数多くの干拓・堤・水道を整備し、鹿島の産業発展につくした名君として、領民から慕われました。これらは現代でも農業の基盤として活用されています。市内の高津原鶯の巣、重ノ木、浅浦、筒口花木庭（花頂山）、広平、鮎越に「忠徳神社」（直朝神社）として祀られています。

1609年生 - 1722年没
主な事業
・高津原水道（鹿城川）、鮎越水道（嶽水道）花木庭水道
・水梨堤、鮎越堤、諸干堤



⑥ 蟻尾山公園（蟻尾城）<肥前鹿島駅から約3km>

蟻尾山公園は、鹿島市中心市街地の南西部に位置し、公園内には、本格的な陸上競技や野球、遊具や花見広場までいろいろな施設があります。クロスランナーコースは1周1kmと2kmがあり、ジョギングやウォーキングが気軽に楽しめます。

また、花見広場には市街地を一望できる標高140mの展望台があります。蟻尾城（在尾城・有尾城）

蟻尾城は標高192mの蟻尾山の山頂に築かれた戦国時代の山城です。鎌倉時代から室町時代にかけて藤津地方に勢力をふるっていた大村氏の居城です。1477年（文明7年）、小城の千葉氏に攻められ落城します。時の城主大村家親は尾根伝いに能古見本城の方へ逃げ延びますが、緑姫や幼児の悲話が伝えられています。

・落城伝説

泣子観音（泣きびすさん）

父親の幼児は乳母に抱えられて納富分付近まで逃れ、潜んでましたが、幼児が泣き出したためとらえられ、殺されました。里人が泣子観音を祀り、その霊を慰めたといわれています。

※1477年 = 応仁の乱終結



⑤ 鍋島直彬公の像

鹿島13代藩主、最後の藩主で、のちに沖縄県知事・貴族院議員を務めました。近代鹿島の文教の発展に尽くしました。

ちょっと寄り道トレッキング

⑦ 豊前坊

蟻尾山頂近くの尾根上には「大天狗」の石祠と、1512年（永正9年）平常親によって造立された「弁財天」の石殿が祀られていて、一般に豊前坊さんと呼ばれています。駐車場から距離にして500m、標高差80mのブチ登山が楽しめます。途中には堀切や堅堀の城郭遺構などもあります。



鹿島酒蔵ツーリズム®

< 肥前鹿島駅から肥前浜駅まで 11km >
ウォーキング・サイクリングがおすすめ



その土地の歴史、文化、食を訪ねて

世界一の日本酒を育んだまち鹿島市。多良岳山系の豊富な伏流水と肥沃な大地から生まれた米を使い、古くから酒造りが盛んでした。今なお6軒の造り酒屋があり、蔵人の手によって良質な酒が醸されており、佐賀県最大の酒どころとなっています。また酒蔵関係の国の登録有形文化財数や佐賀県遺産数も群を抜いています。

鹿島酒蔵ツーリズムは、酒蔵をめぐりながら、その土地ならではの食や文化、歴史を楽しむ旅のスタイルです。

1 矢野酒造

創業は江戸時代1796年（寛政8年）で、築100年を超える母屋にかかる看板は、京都から取り寄せたヒノキの1枚板。いつも長崎街道の往來を眺めています。事前予約で酒蔵見学出来ます。販売・試飲有
☎0954-63-2008
取扱い銘柄は「肥前蔵心」「竹の園」



2 鹿島城跡（旭ヶ岡公園）

鹿島藩鍋島家の居城跡で、かつての城門である赤門と大手門のほか、堀や石垣、周辺の武家屋敷が面影を伝えています。



3 誕生院

真言宗や高山野山を復興した興教大師覚鑿聖人の誕生地。（大師の称号は九州でただ一人です）境内には四季折々の花が咲き誇ります。写経やごま焚き体験、ミステリーツアーも出来ます。（要予約）
☎0954-62-3402

4 普明寺

1677年に建てられた、鹿島藩鍋島家の菩提寺です。京都の萬福寺を模して建てられた黄檗宗寺院で、中国風の建築様式を色濃く残しています。裏山には歴代藩主の墓所が整然と建ち並んでいます。

5 通山堤

江戸時代寛政年間に造られた溜池です。

6 祐徳門前商店街（300mの参道に約30軒）

9 杉彫

佐賀を代表する民俗芸能「面浮立」の踊り手が被る鬼の面を製作する木彫工房です。

8 祐徳稲荷神社

10 浜宿の水路の取水口



11 幸姫酒造

昭和9年創業。代表銘柄「幸姫」は、初代の一人娘が幸せになるようにと願いを込めて命名されたそう。日本酒消費を盛り上げるべく観光酒蔵として蔵を開放しています。試飲のお酒は常時10種類以上を用意。アルコールが苦手な方は甘酒が試飲出来ます。
取扱い銘柄は「幸姫」「笑酒」☎0954-63-3708（見学可能時間）9:00～16:00

7 稲荷ようかんと鯉料理

佐賀県の特産品である羊羹の中でも、異彩を放つ稲荷ようかん。紙筒に入った羊羹を下から押し出して、糸で好きなだけ大きさに切って食べます。祐徳稲荷神社の門前名物です。

古くより鯉料理を提供しています。鯉は滋養強壯の薬用魚として中国古代の書物にも紹介されています。淡白な身を、各店自慢の手作りゆずごしょうで食べることもオススメです。（一部店舗は予約制）



12 お酒の神様松尾大明神（松岡神社）

浜の松岡神社の境内にある松尾大神の祠は、酒造神として崇敬を集める京都嵐山にある松尾大社の分霊を祀ったものです。11月には市内外の蔵元が集まり、酒造安全祈願祭が行われます。



13 泰智寺



曹洞宗寺院の泰智寺は、普明寺と同じく鹿島藩鍋島家の菩提寺です。本堂内には鹿島市重要文化財である1体の木造頂相像と16体の木造羅漢像が安置されています。

15 光武酒造場



創業は元禄元年。伝統からの革新を合言葉に新しいファンを開拓し続け、酒どころ鹿島にして、北部九州初の芋焼酎「魔界への誘い」をヒットさせた仕掛け人でもあります。販売有 ☎0954-62-3033
取扱い銘柄は「光武」「金波」「シャルウィダンス」北部九州初の芋焼酎「魔界への誘い」

14 峰松酒造場



創業は1916年(大正5年)。以前は廻船問屋を営んでおり、現在の当主で4代目。仕込み水は120mの地下水を使用。軒先ではその水を飲用できます。観光酒蔵で常時見学可能。また試飲のお酒は日本酒を始め、焼酎や梅酒など常時10種類以上を用意。アルコールが苦手な方は甘酒や果実酢が試飲出来ます。☎0954-63-2468
取扱い銘柄は「肥前浜宿」「菊王将」「峰松」(営業時間)10:00~17:00

16 酒蔵通り



浜川左岸に広がる町並みで、通称酒蔵通りと呼ばれています。江戸~明治にかけて、酒造、醤油などの醸造業を中心に発展し、大型の酒蔵や武家屋敷、洋風建築など多彩な建物が、変化ある町並みを形成しています。江戸時代には12軒、昭和4年には14軒の酒蔵がありました。

17 山口醤油店



元は武家だった家柄で、庇を支える持ち送りには松竹梅の立派な彫刻が施されています。九州特有の甘口醤油は全国から注文がきます。試飲も出来ます。

18 富久千代酒造



明治中期創業。地元の誇れる酒をと、4店の酒屋の若手後継者達と共に育てた「鍋島」。2011年(平成23年)、世界的権威のあるワインコンクール(IWC)の日本酒部門で見事チャンピオン・サケに選ばれました。販売無
取扱い銘柄「鍋島」

19 漬蔵たぞう



築100年以上経つ巨大な漬物蔵です。蔵内には販売の粕漬などの漬物の他に、数々の調度品が置いてあり、広々とした空間は心が休まります。
☎0954-63-2601

時間のある方どうぞ 馬場酒造場



創業は寛政6年(1794年)。地元で愛される酒という思いで地域にちなんだ「能古見」を立ち上げました。また酒米も地元産山田錦使用とこだわりを持っています。平成27年、福岡国税局の酒類鑑評会の吟醸酒部門で「能古見大吟醸」が大賞に輝きました。また、6棟の蔵は佐賀県遺産に認定されました。販売有 ☎0954-63-3888
取扱い銘柄「能古見」「芳薫」

周囲は里山の風景をよく残しており、鹿島で最も古い神社の一つ、三嶽神社や江戸時代の人工河川・鹿城川の取水口、手作りのまんじゅう屋さん、少し足を運べば、甚八笠をかぶったお地蔵さん、彼岸花が美しい貝瀬天満宮などがあります。

鹿島バスセンターから
大野・広平・柿原・尾崎行き三河内下車
(注:日祝は運休)



東部中学校入口から側道をバイパス沿いに進み坂道を下り、バイパスをくぐり松岡神社へ



酒蔵ツアーは佐賀県鹿島市の登録商標です。

七浦の海と山と里 多良岳火山の爪痕

<ドライブで多良岳火山の雄大さを体感>
<道の駅鹿島の周辺で爪痕探し>
レンタサイクル「ナビチャリ」がおすすめ

<道の駅鹿島へのアクセス>
JR 長崎本線肥前七浦駅より徒歩 5 分
鹿島バスセンターから
県界行き海洋センター前下車



佐賀県最高峰の経ヶ岳 (1076m)、多良岳 (983m) は多良岳火山とも呼ばれています。多良岳火山は、佐賀県、長崎県にまたがり、ほぼ円形をなし、その広がり全国的に見た場合大きい火山に属します。緩やかな裾野を持った富士山型の円錐状火山 (コニーデ式火山) の特色を備えています。経ヶ岳、多良岳、五家原岳は火口壁で、長崎県の黒木地区が火口底だとされています。有史以後は一度も火山活動をしたことがなく、紀元前 100 万年前からほぼ 4 回火山活動をしました。有明海にある沖の島も火山活動の噴出物で出来たとされています。寄生火山と浸食作用が著しく進んでいる特色があります。寄生火山は浄土山、琴路岳、湯の峰山、唐泉山。1 万年以上の強い浸食で火口壁であった経ヶ岳、多良岳、五家原岳等が分かれて俊峰と V 字谷が形成されました。太良町の竹崎港も爆裂火口と考えられています。このように多良岳火山は大小様々な放射状谷が発達しています。

七浦地区は小放射状谷が発達しており、一つの谷が一つの集落となっています。北から西葉(さえ)、母ヶ浦(ほうがうら)、西塩屋、東塩屋、小宮道、大宮田尾、音成 (おとなり)、嘉瀬浦、竜宿浦 (やのうら)、飯田の集落があります。

1 道の駅鹿島



有明海を一望できる場所にある道の駅。地元の新鮮野菜、特産品のミカンなどの果実類や魚介類、お土産物がそろった直売所や、カキ焼き施設 (11 月～3 月) などで年中楽しめます。有名な鹿島ガタリンピックの会場にもなっています。2015 年 (平成 27 年) に、地域活性化の拠点として、国交省より「重点道の駅」に選定されました。

<ナビチャリ>

電動アシスト付・ナビゲート (音声ガイド) 付自転車。鹿島市内の観光地をナビゲートしてくれる優れものです!

9:00～最終貸出 14:00 までレンタル。

料金は 3 時間以内で 500 円です。

☎0954-63-1768



3 干潟体験

干満差 6m、日本一の広大な干潟に面する道の駅鹿島では、ムソゴロウなど干潟の生き物になりきって、泥んこで遊んだり、ガタスキーに乗ったりできます。

干潟の泥はミネラルたっぷり、砂の粒子よりも細かくクリーミーです。更衣室や温水シャワー施設も完備、修学旅行などの団体の体験にも対応しています。

また干潟の生態系は天然の浄化フィルターです。干潟の水質浄化作用の経済価値は、有明海で 1000 億円以上という試算もあります。(H26 環境庁発表)

2 干潟展望館

道の駅鹿島に隣接する干潟展望館には、有明海の生き物を展示するミニ水族館があります。望遠鏡で有明海の様子を観察したり干潟特有の自然や環境について学ぶことが出来ます。



満潮時



干潮時



4 たなじぶ漁・むっかけ漁

有明海の干潟特有の生き物は、昔からの伝統漁法で捕る方法があります。たなじぶ漁は音成川の河口の川筋 (江湖) 沿いに満潮とともに上がってくる魚やエビを 4 つ手網で捕ります。

たなじぶ漁、むっかけ漁は道の駅鹿島で体験出来ます

6 多良岳オレンジ海道



多良岳の裾野 (標高 50m～100m 地帯) を横断するオレンジ海道は、有明海沿岸に沿って走る広域農道です。多良岳の山なみと眼下に広がる有明海を眺め、浸食谷を長大橋で直線的に結んで走ることができる、絶好のドライビングコースです。信号が少ないので、太良町、諫早市方面へ時間短縮が出来ます。

快適な道路ですのでスピードの出し過ぎにはご注意ください。

5 有明海はにぎった海、日本一

水域面積は 1700 km²、平均水深 20m、干潟面積 1.8 万 ha、奥行き 87m (東京湾 1380 km²、平均水深 45m、干潟面積 1734ha、奥行き 60m) (平成 18 年有明海・八代海総合調査評価委員会報告書) 有明海の奥部は透明度の低い海です。年間を通して透明度は約 0.5～3m ですが、決して海が「汚れている」わけではありません。海が濁って見えるのは、筑後川や六角川などから流れ込んだ土砂と海底や干潟に堆積した自然のきれいな泥が、大きな干満差が生まれる潮流に巻き上げられるためです。しかし、最近は透明度が上がってきており、潮流が弱まったためではないかと言われています。水中に巻き上げられた泥は「浮泥」と呼ばれ、海中の栄養分を吸着し、食物連鎖を支える重要な貯蔵庫となります。この食物連鎖がやがて、海苔やカキ、カニなど人間の貴重な食料の源となり、古代より有明海が「宝の海」と言われる所以です。





7 海道しるべ

多良岳オレンジ海道沿いにある、市の産業活性化施設で、広々とした敷地内からは有明海の展望が楽しめます。時間によっては簡単な直売所も開設されています。毎週月曜日休館（祝日の場合は開館し、翌日休館）道の駅鹿島より2km 標高90m



10 矢筈展望所

多良岳の中腹、横断林道沿いにある展望所です。有明海、鹿島市街地、対岸の福岡県、熊本県の展望が楽しめます。道の駅鹿島より8km 標高450m



8 多良岳横断道路

国営多良岳パイロット事業で作られた標高150m～200m地帯を走る道路で、かなり曲がりくねって尾根と谷の始まり近くを結んでいます。

9 多良岳横断林道

多良岳中腹の標高350m～500m地帯を走る全線舗装の林道です。矢筈地区から尾根沿いに行くと、道が分岐していきませんが、間違えると違う尾根上の道になります。



11 肥前七浦駅

JR長崎本線の無人駅。1934年（昭和9年）の開業で駅舎は前年の1933年（昭和8年）に建築されました。外観、内部は駅が無人化された昭和50年代当時のまま、時が止まったような錯覚を覚えます。

12 天子神社

肥前七浦駅裏手に位置し、かつては海岸に突き出た岬であったと思われる、小高い丘陵の先端に鎮座しています。9月の秋祭りには、県指定文化財の音成の面浮立が奉納されます。



13 肥前飯田駅

JR長崎本線の無人駅。駅舎がなく、地下通路よりホームに出ます。ホームの線路沿いに桜が植えられており、近くの尾根道より特急白いかもめとのツーショット写真が狙えます。



15 農家体験民宿みんなの家

有明海を一望するロケーションにある古民家を再生した民宿です。昔ながらの土間や囲炉裏、五右衛門風呂などがあり昭和の暮らし体験が出来ます。

道の駅鹿島より4km 標高120m
☎0954-62-8444

14 戸口神社

肥前飯田駅の裏手、標高20mの山麓にある神社。境内には県内最古で、初源的な形態と考えられる肥前鳥居があります。また1714年（正徳4年）に23名の人々が干拓をなしとげ、有明海の海神である御髪（おながみ）大明神を祀った記念碑があり、干拓の歴史を知ることの出来る貴重な資料です。七浦地区にはほとんどの地区（谷）に干拓の歴史があります。道の駅鹿島より2.8km



16 飯田の幽霊坂

肥前飯田駅とオレンジ海道の中ほどにあります。一見すると登っているように見えるミステリースポットです。

17 宝聚寺

母ヶ浦地区、鎮守神社の近くにあります。かつて島原藩主だった高力忠房（島原の乱後の島原を復興させた大名）の遺骨を納めた仏像と、忠房の妻の父、真田信幸（信之）の大位牌があります。真田信幸は、真田幸村と真田信繁の兄です。位牌は本堂内にあり参拝自由です。高力家は忠房の嫡男、高力隆長の失政により改易されます。仙台藩預かりとなった一行はかつての海岸沿いのとんさん道を通り、最初の宿泊地であったこの地に到着します。家臣が残ることになり、島原の菩提寺と同じ曹洞宗の宝聚寺に遺骨と位牌が安置されました。道の駅鹿島より1.6km





佐賀県最高峰経ヶ岳

<登山口から片道2時間のトレッキングコース>

多良岳山系は、県立自然公園でもあり、豊富な地下水の源です。森と山に囲まれた豊かな自然を体感して下さい。県内最高峰「経ヶ岳」1076mの登山口は、「奥平谷キャンプ場」入口と「自然の館ひらたに」先50mの林道より平谷郷土の森経由と2か所にあります。途中、各々林道を横断し、「馬の背」で合流します。岩場を2つ超えると「平谷越」です。そこから鎖場を2か所登れば山頂です。途中には千年樫や夫婦モミの木など古木や巨木もあります。山頂からは諫早湾越しの雲仙岳や大村湾などが眺望出来ます。経ヶ岳からは中山越経由で多良岳方面へ縦走が出来ます。平谷越から経ヶ岳山頂を迂回して中山越に行くルート上には多水期でないと流れないソーメンの滝があります。



1 レスキューポイント

至る所にレスキューポイントがあります。白色や黄色の看板で示され、県境の山ですので連絡先は鹿島警察署、長崎県大村警察署と分かれまます。ガレ場や滑りやすい岩場もありますので足元の装備は十分に。冬季は積雪もあります。



2 登山道

ケルンやいろいろな看板で方向を示しています。



3 平谷溪谷（平谷の水汲み場）

中木庭ダムの上流、平谷に湧き出る清流と新緑・紅葉の美しい渓谷があり、そこに位置する平谷物産直売所の水汲み場は、県内外から多くの人が訪れる名水スポットです。
☎0954-64-2005 8:00～17:00



4 奥平谷キャンプ場

経ヶ岳登山口に位置するキャンプ場。緑あふれる林の中に、水遊びできる川が流れていて、夏の避暑にも最適です。人気のコテージはトイレ・風呂・台所付き。バーベキュー用品も充実しています。5月から9月までの開場です。
☎鹿島市商工観光課 0954-63-3412



5 自然の館ひらたに

鹿島市自然の館『ひらたに』は、多良岳自然公園の一角に位置し、一帯は樹木ばかりでなく、鳥や昆虫などの種類も豊富で、自然環境に最も恵まれた宿泊施設です。毎年秋には経ヶ岳登山イベントを開催します。
☎0954-64-2579



6 平谷温泉

1軒湯ですが家族風呂もあります。300年以上も前に発見された温泉です。
☎0954-64-2321

山頂から雲仙方面を望む

肥前鹿島干潟と多良岳山系

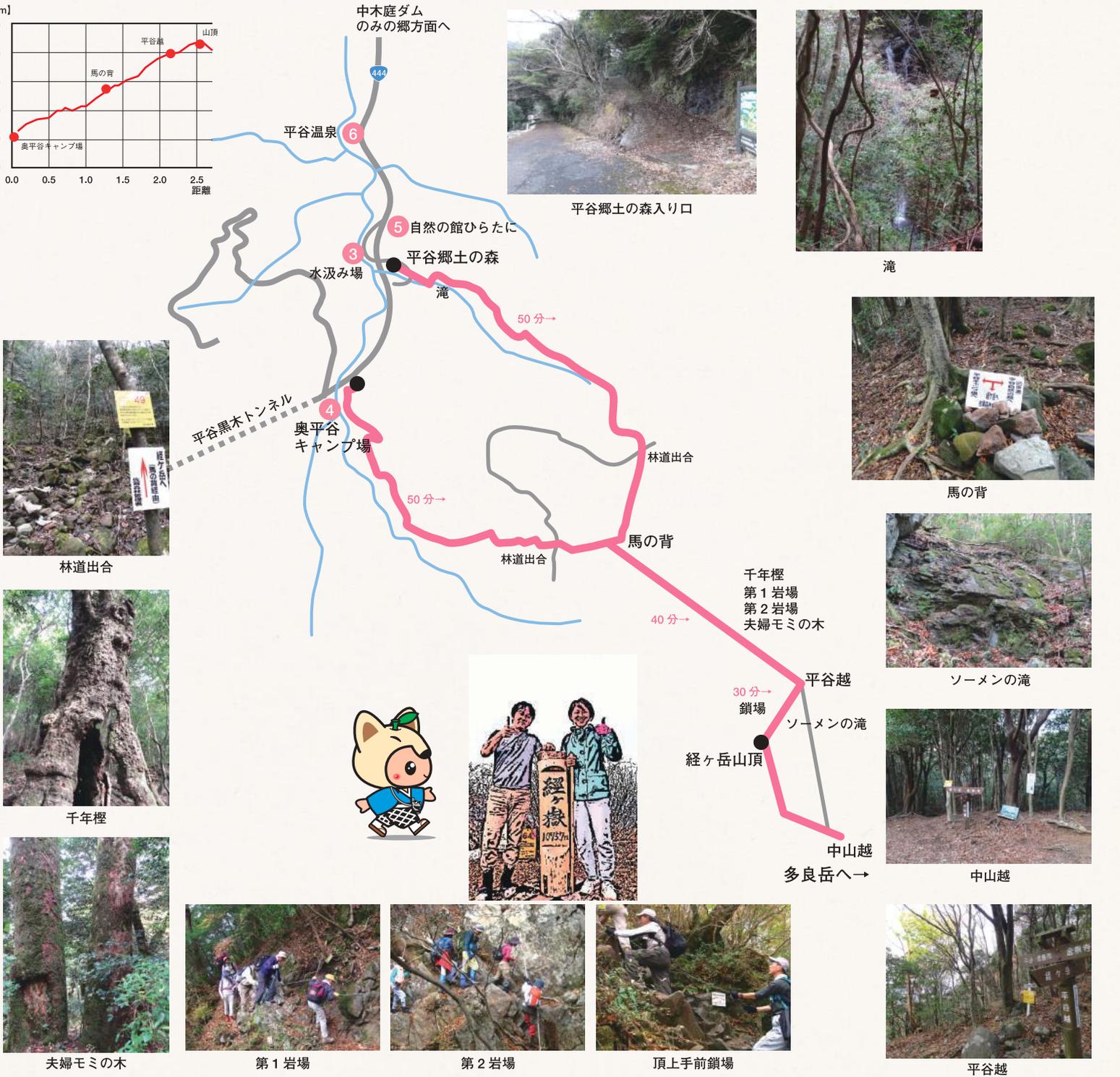
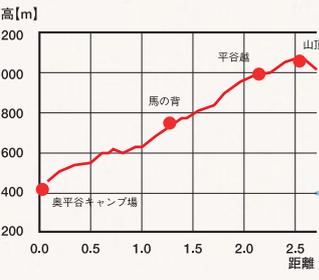
7 中木庭ダム



鹿島市と長崎県大村市を結ぶ国道444号線はしあわせ街道と呼ばれ、沿線の中木庭ダム周辺は、アジサイ、ホタルなど自然豊かなドライブコースです。県営ダムの中では最大で、高さは約70m、15階建てビルに相当します。ダムの周囲を一周すると4km、気分爽快なジョギングコースです。

8 のみの郷

ダム湖畔にある地産地消のお食事処「のみの郷」、休憩所や遊具が設置してあるやまびこ広場が隣接しています。珍しくじら味のだご汁があります。 ☎0954-64-2005 水曜定休 9:00~15:00



平谷郷土の森入り口



滝



馬の背



ソーメンの滝



中山越



平谷越



林道出合



千年榎



夫婦モミの木



第1岩場



第2岩場



頂上手前鎖場



※注意：登山される際は国土地理院地図や登山地図等で確認してください

KASHIMA access



【高速道路で】	【JRで】	【バスで】
武雄北方I.C.	JR博多駅	JR佐賀駅
↓ 10分	↓ 60分	↓ 70分
塩田		
↓ 15分		
鹿島	JR肥前鹿島駅	鹿島/バスセンター
↑ 15分	↑ 60分	↑ 30分
塩田		
↑ 10分		
嬉野I.C.	JR長崎駅	嬉野温泉

お問合せ先

【一般社団法人 鹿島市観光協会】
849-1321 佐賀県鹿島市古枝甲1494-1 TEL 0954-62-3942 FAX 0954-62-3948

【鹿島市観光案内所】
849-1321 佐賀県鹿島市高津原4078 佐賀ビル内 TEL 0954-60-5145 FAX 0954-60-4946

【鹿島市 商工観光課】
849-1391 佐賀県鹿島市大字納富分2643-1 TEL 0954-63-3412 FAX 0954-63-2313

企画・発行

かしま観光戦略会議

観光情報満載！鹿島市観光協会 HP

かしましましま 検索



鹿島市観光協会
フェイスブックも
公開中!!